

## 第2回インキュベーションラボ終了審査会

日時：2022年2月15日（火） 16：00～17：30

参加者：

座長（外部有識者1名）

審査員（外部有識者7名）

事務局（DADC）

プレゼンター（DADC）

審査に関与する事前評価者（外部有識者2名）

### ■対象テーマ

Society5.0の基盤としてのスマートビル・アーキテクチャ

### ■審議結果

進めるべきテーマであり、DADCにおいて活動を本格化することが妥当。進めるにあたっては多種多様な分野から賛同者を集めるために、共感を得られる構想をしっかりとたてることが重要。

### ■審査員主要コメント

- ・知見も深く、問題設定の難易度を鑑みても相当よく整理されて、この領域に強い思いを持たれていると感じた。
- ・やりたいことがかなり広く総花的なのでスピード感が維持できるのかと、ビルOSの既存プレイヤーを巻き込み、協力体制を作る意識面が懸念点。
- ・広い領域を扱うテーマにも関わらず官庁横断になっていない点について、色々なステークホルダーを巻き込むにあたり、彼らが民間を巻き込むだけでなく、運営側など側面のサポート側で経産省以外の官庁を含めた巻き込みの支援を期待する。
- ・スマートビルを構成し得る機能がありその実践を促進したい、その際協調領域を設定すれば重複も無くなり機能連携も図れるというボトムアップの印象がやはり強い。スマートビルでどんなことをしたいのか、well-beingや生産性、創造性といった抽象度のレベルでは書かれているが、それはどういう姿なのか、みんなが一緒になって取り組みたいと思える姿なのか、その姿を前提にするとどんな機能が必要なのかという、トップダウンへのチャレンジも期待する。DADCの活動とするなら、ありたい姿をどのようにみんなで実現していくか、どのように貢献していくかという形の取り組みにも仕立てられるとよい。
- ・スマートシティ等に比べるとやりたいことが具体的なので、そういうところから議論ができる。非常に複雑なシステムではあるが、ステークホルダーの特定や協調領域の策定が具

体的にできるので取り組みやすい。言及はなかったが、海外展開も見据えて進めてほしい。

- ・他の官庁のグリーンビルを目指す委員会などでは、不動産売買の業界も参加し、それが売買する価値があるのか、高く売れるのかがかなり課題になっていた。実現されたときの理想を作り上げることも重要だが、現実として進める時にどうなるのか、本当に普及していくのかも視野に入れた方がよい。民と民のコラボは色々な面で難しく、そこがいかにかうまくできるかが今回のキーポイントの1つ。国のサポートを期待する。
- ・この手のプロジェクトを進めるのに重要な、レバレッジポイントが現段階では見つけにくい。成功の一つのパターンとして、制度の面や他の連携事業者の動向をうまくとらえ、誰かの強い要望といった大きなものをうまく使うとか、同時並行で動いている様々な政策を分析しここにうまく乗ればいっしょにその部分を実現するといった戦略が必要。
- ・スマートビルはシティの集約型で、色々なタイプの内外のデータが集まり可能性が大きい領域である。今後、実際にどういうユースケースでやっていくかが、この活動で重要なポイントになる。日本企業が余力のない状況でどこまでできるのかは、経産省を含めたバックアップや共生といったものをどう作るかがとても重要。
- ・このような分野は普及まで進まないことが多く、無いよりあった方が良いが、あっても誰も使わないというものがほとんど。アーキテクチャの議論をする前に、何のためにこれをやるのかの深掘りが必要。例えばゼネコンが個別に色々作っていても、最終的にソフトを維持管理することになりメンテナンス費用がかかるとなれば協調領域の話になるだろうし、サードパーティーを巻き込めるユースケースが出てくれば一緒にやろうとなる。巻き込みをした上で、参画してきた人達にとってうれしいことがあれば進んでいける。
- ・国がバックアップする場合、構想やありたい姿を意識せずに、補助金が得られるなら参加するということがとても多い。その場合、補助金などの期間が終わると結局それぞれでやり、共通で作ったものは使われないことが多い。最初にこういうものを作りたいというものがあ、そこに共感した人たちが集まり、何とか一緒に実現しよう、というものがないと続かない。ビルだけでなく外のモビリティやエネルギー業界など、業界をまたいで色々な人がそれぞれの英知を持ち寄ってその姿に対して貢献をしていくぞという機運を起こせないとなかなかうまくいかない。OS やデータモデルの話が大事なのはその通りなのでそこも並行でやりつつ、あるべき姿・構想を打ち立てるところにも時間をかけてほしい。
- ・巻き込みが成功することを期待しているが、もしできなかった場合も巻き込みができなかった理由は知見になるので、それも成果として DADC はしっかり把握してほしい。

以上